

第3次調査は、史跡範囲の南縁付近で昭和57年（1981）に実施しました。調査区内で遺跡が残っていた範囲は約30㎡でしたが、古い順に縄文時代中期の竪穴住居跡3軒、そして、その後に堆積した縄文時代後・晩期の遺物包含層（土器などが堆積している土層）を明らかにしました。遺物は住居跡内からも出土しましたが、縄文時代後・晩期の遺物包含層には、簡単に掘り進めない程、多量の土器が堆積していました。出土遺物の中で特筆されるのは、小型の深鉢形土器の上部に男女とみられる土偶が一对貼付されている「土偶装飾土器」（埼玉県指定文化財）です。



第3次調査出土「土偶装飾土器」